事業完了報告書

調査研究期間等

調査研究期間	令和３年５月１４日　～　令和４年３月１１日
調査研究事項	≪委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究≫ Ⅰ　教育課程に関すること Ⅱ　広報・相談体制の充実に関すること Ⅵ　その他夜間中学における教育活動充実に関すること
調査研究のねらい	○　本市夜間学級に在籍する生徒の約９割は外国籍であり、そのほとんどが日本語を基礎から学ぶ状態で入級している。国籍は多様で、年齢層も幅広く、個々の学習歴や文化も様々である。 ○　夜間学級について広く周知することにより、様々な事情で十分な教育を受けられなかった方に義務教育を受ける機会を保証する。 ・　生徒が日本において自立した社会生活を営むために必要な力を身に付けさせるため、個々の生徒の学習状況に応じた効果的な指導方法、カリキュラム等について研究する。 ・　入学希望者の中には、不登校を経験した人やさまざまな事情を抱えた人がいることから、生徒一人一人の特性に合った学び方を尊重し、受入体制や指導方法等について研究する。 ・　より多くの人に夜間学級のことを知ってもらえるよう、ホームページ等を利用して、授業の様子等を掲載する。また、オープンスクールを実施し、夜間学級の取組の紹介を行う。 ・　経済的負担を考慮した効果的な校外学習等の在り方について研究する。（広島市立二葉中学校）
調査研究の成果	【広島市立二葉中学校】 【広島市立観音中学校】 別紙のとおり

別紙

事業完了報告書

【広島市立二葉中学校】

調査研究のねらい	○　本市夜間学級に在籍する生徒の約9割は外国籍であり、そのほとんどが日本語を基礎から学ぶ状態で入級している。国籍は多様で、年齢層も幅広く、個々の学習歴や文化も様々である。 ○　夜間学級について広く周知することにより、様々な事情で十分な教育を受けられなかった方に義務教育を受ける機会を保証する。 ・　生徒が日本において自立した社会生活を営むために必要な力を身に付けさせるため、個々の生徒の学習状況に応じた効果的な指導方法、カリキュラム等について研究する。 ・　入学希望者の中には、不登校を経験した人やさまざまな事情を抱えた人がいることから、生徒一人一人の特性に合った学び方を尊重し、受入体制や指導方法等について研究する。 ・　より多くの人に夜間学級のことを知ってもらえるよう、ホームページ等を利用して、授業の様子等を掲載する。また、オープンスクールを実施し、夜間学級の取組の紹介を行う。 ・　経済的負担を考慮した効果的な校外学習等の在り方について研究する。
調査研究の成果	1　調査研究の実施内容 【4月】・　第1回研修会 出身国が6か国に増えた各生徒の学習及び生活状況を把握するとともに、各学習グループにおける各教科の年間指導計画を検討し、評価方法についての共通理解を図った。 【5月】・　適応指導教室などの視察 新型コロナウイルス感染拡大対策のため、実施できなかった。来年度は是非指導方法等の研修として実施したい。 ・　第1回検討会議 各生徒の学習ニーズと入級後の学習及び生活状況を踏まえて、前期の各生徒及び各学習グループの学習内容や指導方法等について協議した。 【6月】・　第2回検討会議 夜間学級の情報を発信する方法について検討した。今年度も授業や行事、学校生活の様子を意識的に学校のホームページに掲載し、夜間学級について周知を図ることにした。 ・　校外学習 新型コロナウイルス感染症対策のため、11月に延期した。

	【7月】・ 第2回研修会 個々の生徒の学習状況や習熟度等について情報交換を行い、実態を把握するとともに、各教科の指導方法や教材について交流・検討し、指導方法や学習内容の充実・改善を図った。 【8月】・ 生徒の実態に適した学習指導方法等についての研修 講師を招聘し、「日本語指導について」の研修を行った。効率的な日本語指導方法として学習者に自分の学習目的と方法を考えさせる契約アプローチの方法を研修し、またディクトグロスの模擬授業を通して母語であっても聞きながら書き取ることの難しさを学ぶことができた。 ・ 教材の研究 研修を踏まえて、授業で「聞く」「書く」を授業に取り入れる場面を設けられるよう研究した。 ・ 夜間学級に関する情報についての広報 学校のホームページで夜間学級の実際の様子を紹介していることが入級問い合わせ等にもつながり始めている。また、生徒が自分たちの活動をホームページで見て意欲を高める効果も上がっている。 【9月～】・ 夜間学級連絡会① 新型コロナウイルス感染症対策のため、書類による両校の状況や入級希望者に関する情報交換を行った。 ・ 作成した教材を用いた授業研究 日本語授業の導入や会話教材、聴解教材の指導の時に教師の発話やCD教材を「聞き」ながら「書く」活動を取り入れる形で活用方法を研究した。並行して、日本語授業でロールプレイ等の「話す」活動にも意識的に取り組んだ。生徒の日本語でのコミュニケーション能力を向上させ、日本語での会話を楽しめるようになり、学習全体の意欲向上にもつながった。 ・ オープンスクール① 新型コロナウイルス感染症対策のため、12月に延期した。 ・ 異文化交流体験学習 新型コロナウイルス感染症対策のため、12月に延期した。 【10 月】・ 第3回研修会 各生徒の前期の学習状況を確認し、後期の指導内容について検討した。評価方法についても再確認した。また、高校受験希望生徒に対する取り組みについて確認した。 【11月】・ オープンスクール②⇒①

	9月に予定したオープンスクール①を12月に延期したため、オープンスクール①として実施した。校長会、ふれあい教室、学校のホームページ等で案内した。日本語指導に携わっている方が参加され、夜間学級を知っていただくよい機会となった。今後も地道に取り組んでいきたい。 ・ 校外学習 新型コロナウイルス感染症対策のため、目的地を山口県岩国市から広島県内（広島市植物公園）に変更して実施した。大型バスでの移動となったため、公共交通機関を利用した場合にかかる費用や集合場所までの移動等煩瑣な手間がなかったことに加え、晴天に恵まれ、在籍生徒のほとんどが参加した。コロナ禍で野外活動も修学旅行も中止となった中で、唯一夜間学級全体で取り組んだ校外学習となった。理科の授業を中心に事前学習に取り組み、当日は熱心に学習ノートへ記録した。三密を避けながら昼食時に交流会を開催し、往復の大型バスの中でも仲間との親睦を深めることができ、非常に有意義な校外学習となった。 ・ 先進校視察 （1） 外国籍の生徒への学習指導について （2） 入学希望者の受入体制や指導方法等について 新型コロナウイルス感染症対策のため、リモートで実施した。徳島県しらさぎ中学校（全国初の県立夜間中学校として令和3年4月開校）を視察した。日本人 24 名、外国籍生徒 13 名、計 37 名が在籍中で、年齢層は 10 代から 80 代までと本校より幅広いが、出身国の多さなどよく似た状況である。日本語学習と教科学習のバランスが課題ということも本校と同じである。隣接する中央高校夜間部や池田高校など高校との交流を特色としている。本校では高校との交流は実施できていないので、今後参考にしたい。また、野菜栽培活動やお遍路体験、阿波踊り体験など地域と密着した取組も特色である。地域密着の取組も本校では十分にはできていないので、今後参考にしていきたい。 【12月】・ オープンスクール② 校長会、ふれあい教室、学校のホームページ等で案内した。入級希望者と日本語指導研究者の2組の参加があり、夜間学級の状況を知っていただくよい機会となった。今後も地道に取り組んでいきたい。 ・ 異文化交流体験学習 講師によるピアノ演奏や歌唱を通して、各国の音楽を鑑賞し、

	国を超えた音楽のすばらしさを実感でき、異文化理解を深める機会となった。また、生徒も司会進行やギター演奏、手話付きの歌唱で参加し、日頃の日本語学習の成果を発揮でき、その後の学習への意欲を高めることができた。 【2月】・ 第4回研修会 年間指導計画や評価方法、学習指導、生徒指導等について、今年度の成果や課題を検討した。 ・ 第3回検討会議 既卒者、入国者を問わず、さまざまな事情を抱えた生徒が入級した場合を想定し、学習グループの編成や年間指導計画等について検討した。 ・ 第5回研修会 今年度の成果と課題をまとめ、来年度へ向けての準備を確認した。 ・ 夜間学級連絡会② 今回も新型コロナウイルス感染症対策のため、書類による両校夜間学級の状況や入級希望者に関する情報交換を行った。 2 調査研究の成果 ○ 今年度は、中国・ネパール・フィリピン・ブラジル・インドの外国籍の生徒に加えて、日本人生徒も学び直しで入級し、生徒の日本語力や各教科の学習状況、卒業後の進路希望等により、日本語1・日本語2・教科基礎・教科発展の4グループに編成した。毎週各グループの学習状況と生徒の状況を交流し、学習の内容・進度・指導方法について協議し、全員が意識統一しながら学習指導に取り組むことができた。 ○ 休まず授業を受けることと家庭学習ができれば、程度の差はあるものの力をつけることができ、モチベーションを上げることもできる。また、何か1つでも自信を持たせることができれば、他にも良い影響を与えるため、教材等の工夫に取り組んでいく必要がある。 ○ パソコンの授業では、今年度も各生徒の日本語力に応じた教材を使ってシャドーイングに取り組んでいる。個人差はあるものの、自分のペースで繰り返し学習することで、日本語を聞く力も伸び、滑らかに話せるようになった。また、今年度より日本人生徒を対象にして英語のシャドーイングも取り入れたが、リスニング力が向上し、発音の上達にも効果的だった。 ○ 進路保障に向けて昼の補習を計画したが、補習を希望しているものの出席しない生徒の指導に苦慮した。2年生の進学希望者にも、早めに補習を始めて、進路の見通しを持たせ保護者と連携しながら取り組み

	を進めていく。 ○　学校のホームページに授業や行事の様子を随時載せて、夜間学級の存在を周知させることができた。 ○　タブレット端末の導入・活用に向けた取組が来年度の課題である。

別紙

事業完了報告書（広島市立観音中学校）

1　調査研究のねらい

（学習指導に関すること）

本校には日本人、ネパール人、フィリピン人、中国人が在籍し、年齢層は１０代から６０代と幅広く、学習歴も様々である。義務教育内容習得が不十分な既卒者も入級している。そのため、日本語の習熟度が低い生徒に対する日本語指導及び、義務教育内容の習得が不十分な生徒に対する教科指導が課題であるため、各国籍の生徒一人一人の状況に応じた効果的な指導や教材のあり方について研究する。

（課題）

- 日本語の習熟度が低く、また学習速度も遅い生徒に対する効果的な学習指導
- 継続的な登校が困難なため日本語の定着度が低く、初級後半レベルの日本語学習が難しい生徒に適した学習指導
- 日本語学習を主とした学習段階から、教科学習を主とした学習段階へ移行した生徒に対する教科指導
- 義務教育内容の習得が不十分な、学び直しの日本人生徒に対する教科指導
- 高校進学希望者の学力保障

（その課題を持つこととなった背景等）

- 国籍・年齢も母国での学習歴も来日後の生活環境等も出席状況までも異なるさまざまな生徒が、少人数グループであるとはいえ、一斉授業で日本語初級から学習するため、生徒間の日本語の学習速度や習熟・定着度には大きな差がある。
- 数年前から、出席状況や生徒の年齢等により、日本語初級の前半終了時点で既に学習内容定着に差が生じる状況が見られ、既習事項の定着を前提として展開される教科学習の教材の学習内容を理解するのが困難な生徒が多い。
- 中国人生徒の中には、未就学やそれに近い実態のため中国語の読み書きすら困難で、翻訳解説書中国語版が学習理解の補助教材とならない生徒もいる。彼らに対して、多く速く教えることよりも、

日本語を確実に定着させるため、絵や実物を活用したり反復練習等を多用したりするなど工夫しているが、理解・定着が困難な生徒もいる。

・　日本語教材だけで行う日本語学習では、日本語力はある程度までで進歩が滞ってしまいがちである。日本の文化・社会・歴史・生活習慣等を幅広く学ぶことによって全体的な日本語力の向上は図れるが、生徒の多くはその認識までには達していない。また、日本語能力は初級レベルであり、日本語能力と中学校教科書で必要とされる日本語力にはかなりの開きがあるため、日本語による教科学習はまだ早いと考える生徒も多い。

・　本校は従来から日本人生徒を多く受け入れており、義務教育内容未修了者への教科指導にはそれなりの実績がある。しかし、令和に入り既卒者（日本人の学び直しの生徒）・義務教育内容の習得が不十分な生徒を迎え、さらに「工夫された授業」によって効率よく学習指導し、短期間で成果を上げる方法について調査・研究する必要が生じてきている。

以上のような状況の中で、より効果的に生徒の学習意欲を高める取組を行う必要があり、日本語指導チーフ・教科指導チーフを中心に効果的な日本語学習自主制作教材の作成及び「行事を通した日本語指導」について調査研究する。また、オープンスクール開催へ向けての調査研究・情報収集も行う。

2　調査研究の成果

⑴　本年度の取組について

上記のねらいの達成を目指して、本年度は次の取組を行い、実践に結びつけ成果をあげた。

①　教員研修

年５回程度、校内で担当教員による本年度の授業に関する研修会を開催し、生徒個々の学習状況を把握するとともに、本年度の学習グループ編成や年間カリキュラム・使用教材・指導方針・方法について意見交換を行い、学習指導に対する意識統一を図る場とした。また、夜間学級を広く知ってもらうための方法やオープンスクールの開催について討議を重ねた。さらに「自主作成教材」の交流・研究・討議を継続的に行った。

②　情報収集…先進校視察　（コロナウイルス感染拡大予防のため中止）

③　授業実践

地域交流や文化体験を通して日本語に触れさせ、日本人と直接話すことで自分の日本語力を確認させる機会を持つことができた。また日本語初級グループにおいて、研修や各自収集した情報を活用して、生徒実態に応じた学習教材を準備し、分かりやすい授業づくりに努めた。また今年度は特にＩＣＴ等の活用を通して、シャドーイング・インタビュー・作文発表会など、コミュニケーション活動を積極的に取り入れ、主体的な学びにつなぐことができた。

＜行事を通した日本語指導＞

・　７月　校内夏祭り　～日本の伝統文化にふれる～
・　７月　校外学習　～広島の復興をたどる～
・１０月　校内交流会　～異国籍メンバーとのかかわり～
・１１月　地域交流　～公民館活動の体験を通して
・　２月　音楽を通した日本語指導（コロナウイルス感染拡大防止のため中止）
・　３月　国際理解講座　～韓国の日常生活と料理を学ぶ～（コロナウイルス感染拡大防止のため中止）

④　オープンスクール

１１月に３日間実施

「夜間学級で学んでみませんか？」･「オープンスクール～夜間学級見学会～お知らせ」の２種類の啓発資料を日本語・英語・中国語の３か国版を作成し、校内へ掲示し呼びかけを行うとともに、学校ホームページにも掲載した。その結果、外国人による問い合わせや日本人の参加が昨年度より大幅に増えた。

⑵　改善取組の成果・課題について

①　教材作成

・　ＩＣＴ等の活用を通して、シャドーイング・インタビュー・作文発表会・日記など、コミュニケーション活動を積極的に取り入れ、主体的な学びにつなげていくことができた。欠席しないで授業を受け、学習が継続できた生徒は確実に学力が上がり、学習意欲の向上につながっている。さらに、生徒に一つでも自信を持たせることができれば、他のことにも良い影響を及ぼすので、休みがちな生徒への根気強い声かけと、学校へ行って勉強しなければ損をすると思える魅力的な授業、教材作りを工夫していく必要がある。

② 行事を通した日本語指導

・ コロナウイルス感染拡大予防や生徒の健康状態の把握と一人ひとりが安心・安全に学校生活を送るために、今年度も養護教諭を中心に対策を徹底した保健指導では、その取り組みを通じて感染拡大防止はもとより、日本語指導の側面でも大きな成果があった。しかし、新型コロナウイルス感染症の指導が中心であったので、生徒の関心が薄れることがあった。

・ コロナ禍で野外活動が中止となり、それに代わる行事として実施した「校内交流会」は、授業の枠を越え日本語習熟度が様々なメンバーとチームを組み、日本語で出題された問題を解きながら行動することができ生徒にとって思い出に残る貴重な体験となった。しかし準備期間が短かったため、教師主導の行事となり生徒たちの力で準備できたことが少なかった。

・ 広島の史跡を見学し、平和学習を通して広島の歴史理解を深めることができた。教室での学習を実際に校外で生かす社会体験の場として、マナーを学び、日本語を使って普段交流のない生徒との交流も深めることができた。しかし平和学習を終えて、ヒロシマへの思いがどのように変わったか、学んだことをどのように行動に活かしているか、その確認はできていない。